

【学校教育目標】  
心豊かで郷土を愛し、ともに前進する力を身につけた生徒の育成  
～令和嘉穂中学校人権基本法を柱に～

【本年度の重点目標】人間関係が良好で学び合う雰囲気に満ちた学校・学年・学級づくり（集団づくり）を实践する。  
①共通理解・実践による学びに向かう力をはじめとする学力の向上を図る。  
②共通理解・実践による、人権基本法を基盤にした社会性（道徳性や人権感覚等）の育成を図る。

《評価規準》 4：できた（行っている） 3：だいたいできた（だいたい行っている） 2：あまりできなかった（あまり行っていない） 1：できなかった（行うことができなかった）

領域	項目	観点	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
確かな学力の向上	授業	授業づくり	<p>板書や発問等を工夫した、わかりやすい、丁寧な授業実践が出来ている。</p> <p>〈結果〉 昨年度から引き続き「導入の工夫」「かく活動」について取組、制限があるなか教科で工夫しながら実践できた。</p>	2.88	<p>○生徒のノートに学習した成果がよく記録されている。デジタルの世の中だが、書くことは基本である。</p> <p>○生徒アンケートの結果では、3年生の自己評価が高くなっているのは、1～3年生へと継続して取り組んだことの成果が表れている。</p> <p>○難しい問題や説明を集中してしっかり聞き考える姿が印象的でした。5、6年の児童にお手本として見せたくになりました。先生方の日頃の努力のおかげです。</p> <p>○今年度は廊下からの授業参観であったが、どのクラスも落ち着いた授業風景だった。また、廊下の掲示物等から生徒たちが窮屈ではあっても学校生活を楽しんでいる様子が窺えて安心した。</p> <p>○教え込む授業づくりではなく、「主体的、対話的で深い学び」につながる授業づくりは定着していると思います。ぜひこれからも中学校の課題として研修を進めてほしい。</p> <p>○1時間ごとの「めあて」をしっかりと確認しながら授業が展開されているので、学ぶ意欲、家庭学習の充実につながる実践と思います。</p>	<p>○将来の目標をしっかりと持って学習に臨めるような生徒の育成に努め、生徒とともに授業を作り上げるため、学ぶ意欲や見通しが持てる「導入の工夫」と根拠をもって自分の思いや考えを「かく活動」を意識した授業づくりの研修を進めていく。</p> <p>○小学校とも連携を深め、中学校入学時に段差を感じることなく学習が継続できるような取組をつくっていく。</p> <p>○C・D層の学力が厳しい生徒への手立てを考え、KST（習熟度別、分割補充学習）などの補充学習を実施する時間確保や支援体制を構築していく。</p>
		学ぶ意欲	<p>めあてが、生徒のめあてとなり、主体的に取り組む、わかる・できる喜びのある授業実践が出来ている。</p> <p>〈結果〉 学習面で厳しい学年もあるが、生徒の得意・不得意について、教師間で話し合いながら授業の工夫を行えた。</p>	2.88		
	研修研究	主題研究	<p>思考力・判断力・表現力等を育成するために生徒が表現し、解決していく授業改善を行っている。</p> <p>〈結果〉 臨時休業等あり、教育課程を精選しながらの1年であったが若年教員を中心に授業研を行い、学びを深めることができた。</p>	2.94	<p>○従来とは違ったスケジュールで大変だったと思うが、反面、生徒も教師も強弱をつけながらポイントを絞り「集中」することができたのではないだろうか。</p> <p>○新型コロナの影響が教育現場の広範囲に及んでいることは十分に理解できる。だが、このピンチを授業や研究研修の在り方を再構築するいいチャンスだと捉えてほしい。来年度以降の取組に期待している。</p> <p>○コロナ禍で主題研究等も思うようにできなかったと思います。しかし、これまでに体験できなかった緊張感の中で様々な実践をされたことが研修そのものだと思います。</p>	<p>○生徒の学ぶ意欲を高めつつ、3つの「資質・能力」を育てることを意識した授業づくりが進むために、主題研究の目的を職員で共通理解しながら計画的な授業研修を行っていく。</p> <p>○生徒自身が自分の意見や考えを根拠をもって述べるような「かく活動」を、どの教科・領域でも粘り強く進めていく。</p>
		言語活動	<p>考える教材を準備し、考える時間と書く時間のある言語活動の工夫が出来ている。</p> <p>〈結果〉 コロナ禍で教育活動に制限があるなか、思考力を伴う「かく活動」について各教科で実践を進めることができた。</p>	2.75		
	教科指導	教科指導	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得と確実な定着を図るために、習得内容の精選や繰り返し学習を行っている。</p> <p>〈結果〉 各種テスト結果について全体で共有し、学力向上委員会で取組を検討・提起を行いながら改善に務めた。</p>	3.31	<p>○教師により授業スタイルがあるが、それぞれのスタイルを変えないことが、生徒からすれば「次は何が来る」と予想でき、準備対応しやすい。その様な状況に今はあると思う。</p> <p>○コロナ禍において大変ご苦労されていると思う。学習面で厳しい生徒に対して学校総体で学力向上に取り組まれていることは大変良かったと思う。</p> <p>○小中同じ課題になりますが「生きる力」に直結する「主体的で対話的で深い学び」となる授業をめざしましょう。</p> <p>○外部テストの結果を見ると徐々に学力が低下しているように思える。ここ数年注視してきたが上昇する気配が全くない。このまま低迷していくのか、それともどこかで巻き返せるのか、来年度は正念場である。</p> <p>○コロナ禍で臨時休校等で教育課程の管理が大変だったと思います。しかし3学期までに授業時数がほぼ確保されるのは先生方、生徒の皆さんの頑張りの成果だと思います。</p>	<p>○嘉麻市教科教育研究会や校内の計画的な研修の場等を活用しながら、個々の授業力の向上を行っていく。また、校外で研修したことを校内に還元し学べるような機会をつくっていく。</p> <p>○新学習指導要領の教科・領域で示されている「見方・考え方」を十分に反映した授業ができるように、一人1回以上の授業研修をおこない、お互いに研鑽に努める。</p> <p>○基礎・基本の知識・技能の定着をめざし、家庭とも連携しながら家庭学習や補充学習の充実を図る。</p>
		授業力の向上	<p>自らの授業力の向上のために、年1回以上の授業研究（研究協議会）を行っている。</p> <p>〈結果〉 今年度は教育課程の進捗を進めていくことが優先になり、全員が実施する授業研をおこなう時間設定が不十分であった。</p>	2.00		
総合所見	<p>○新学習指導要領の実施と合わせ「主体的・対話的で深い学び」が実践できるような「導入の工夫」「かく活動」を意識した授業づくりをすすめる。</p> <p>○基礎・基本の知識・技能の定着を粘り強く進め、KSTなどの校内で行う補充学習と、計画的な家庭学習をすすめて自ら学ぶ生徒を育てていく。</p> <p>○校内外の研修等で研鑽を積み、意欲的に授業づくり、授業改善に務める。</p>					

領域	項目	観点	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
豊かな心の教育	道徳教育	道徳的実践力	日常生活の中で生徒にある道徳的価値を見つけ、積極的に価値づけを行うことができている。 〈結果〉 「嘉徳中人権基本法」を基盤に据えながら、学校のあらゆる場面を通して道徳的実践力を高める取組をおこなった。	2.71	○大きな声でのあいさつ、返事がよくできている。基本であるので、これだけは継続をお願いします。 ○来校した者に自分から進んで笑顔で大きな声であいさつができる生徒が多い。素敵なことです。小中で連携して継続していきましょう。 ○道徳教育が道徳の教科化になりどう変わったのか教えてほしい。	○「考え、議論する道徳」をめざし、校内研修を深め道徳の授業力向上をめざしていく。また、「嘉徳中人権基本法」の考え方が、生徒の日常生活にも十分反映し、姿としてあらわれるような意図的取組を仕組んでいく。 ○教師からの取組だけでなく生徒会活動等を通して、「あいさつ」をはじめ、生徒が主体となって規範意識が高まるような実践をつくり出していく。
		規範意識	社会生活上のルールやマナーを守り、学校・地域社会をよりよくしていこうとする生徒を育てることができている。 〈結果〉 生徒たちが「あいさつ」について意識を深めだし、大きな声で挨拶が出来つつある。学校のルール等もよく守れている。	3.06		
	人権教育	思いやり人間関係	互いの良さや可能性を認め合える、生徒理解の視点に立った人権が尊重される人間関係づくりができている。 〈結果〉 ・人権基本法の内容が日常から実践できるように、学年・学級または、生徒会を通して取組を行うことができた。	3.06	○コロナウイルス問題は健康面、経済的にも生死にかかわるが現実に行進している生の教材である。 ○嘉徳中関係者からコロナウイルス感染者を出さない努力が、差別や偏見の抑止につながると思われる。 ○昨年は「嘉徳中人権基本法」今年「嘉徳中シトラスリボンプロジェクト」中学校が人権教育にしっかり取り組んでいることがよく分かった。 ○嘉徳中校区の小中3校は、「良い子」が多い反面、冷たい面がある。「思いやり」の心を育む積極的な人権教育が3校には絶対に必要だと思います。 ○「嘉徳中人権基本法」を柱に差別や偏見の課題に、生徒会と共に考え、行動できる生徒の育成はこれからの社会生活で最も大切なことであると思います。ぜひ継続してほしい。	○人権集会や「嘉徳中人権基本法」など人権・同和教育に係る校内での計画的な取組ができつつあるので、日頃の生徒同士の人間関係づくりが進むような活動を取り入れていく。 ○生徒一人一人が安全・安心して学校生活を送れるための学校づくり（学級・学年づくり）を行い、いじめや不登校がないように努める。 ○人間関係づくりや人権学習の充実ができるように、校区の小学校とも連携して取組をすすめていく。
		環境づくり	人権が尊重され、生徒一人ひとりが自分が大切にされていることが実感でき、安心して過ごせる学校・学年・学級づくりを行うことができている。 〈結果〉 ・コロナ禍で不安な1年が続いたが、正しく理解をすすめる学習を行い、地域への啓発活動へとつながる取組を行えた。	2.94		
	生徒指導	積極的生徒指導の推進	生徒一人ひとりに自己存在感を持たせ、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を持たせる指導を意図的に行っている。 〈結果〉 心配な生徒に対するケース会議や外部機関との連携など、各種校内委員会の活動ができ積極的な生徒指導へとつながった。	2.88	○嘉徳中校区には、学校のことを考えてくれる地域のボランティアの方々がいらっしゃいます。3校と地域のみなさんとの連携を深めていきましょう。 ○中学生は「子ども」と「大人」の心が共存する時期です。一人ひとりを大切にしながら信頼関係を構築するためにも、保護者・地域との連携を深めてほしい。	○定期的な生徒指導委員会を行い、生徒や学級の細かな情報交換と、その後の対応を検討し、取組を充実していく。 ○PTAを始め、学校教育に協力的な校区（地域）の力を最大限生かしながら、地域の人・もの・ことを計画的に活用し、この地域で学べることの良さを感じられる教育活動を創り上げていく。 ○教師一人一人のアンテナを高く持ち、生徒の変化を見逃さないような教師集団をめざすと共に、お互いの違いを理解し合えるような生徒集団を育てていく。
		保護者・地域・関係機関との連携・協力	P T A行事や地域行事等に積極的に参加し、生徒理解や信頼関係づくりを積極的に行っている。 〈結果〉 今年度は保護者の授業参観等実施するのが難しかったが、地域の方の話を聞く機会などできることから実施をすることができた。	2.53		
		いじめ対策	積極的にいじめのない学級や人間関係づくりの取組を行っている。 〈結果〉 生徒指導委員会を毎週定期的に開催し、生徒一人一人について細かく情報交換や、生徒指導の内容を確認することができた。	3.12		
	総合所見	○道徳で学んだ道徳的価値を、日々の学校生活に生かせるように、「考え議論する」道徳を校内研修ですすめ研鑽を積んでいく。 ○様々な状況から不登校（兆候）になる生徒増えてきているので、教師間の連携と校外の関係機関との連携を密にしながら不登校の解消をめざす。 ○生徒会活動など生徒の活動が見えるような取り組みを企画し、「嘉徳中人権基本法」などが学校生活にしっかりと根付くような実践をおこなっていく。				

領域	項目	観点	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
人間関係調整能力（社会性）の育成	キャリア教育	キャリア教育の推進	進路学習・キャリア教育の系統的・計画的な取組のもとに、進路指導が出来ている。  〈結果〉 職場体験ができないなど活動が制限されたが、月1回の学活（キャリア教育）の取組を位置づけながら実践できた。	2.59	○何かと難しい時期ではあると思うが、外部講師による特別講和など生徒の心に残る取組を推進してもらいたい。  ○時代の急激な変化の中で自分の将来を考えての勤労観、職業観が育つことを願っています。	○生徒たちに将来への展望や、何のために学ぶのかなど考えるさせることが不十分な課題があるので、中学校入学から卒業までの3年間を見据えたキャリア教育を進める。また、キャリアパスポートの活用を生かした小中の連携に努める。  ○コロナ禍で事業所で実習をおこなう職場体験が難しくなっているので、今までの成果・課題を整理しながら、生徒の勤労観・職業観を育てる新たな取組を創り出していく。  ○生徒のモデルになるような人材との出会いの場をつくり、将来への夢や希望などにつながるような実践を創造する。
		勤労観 職業観	職業調べや職場体験、その他の体験学習などを通して、生徒の勤労観・職業観を育てることができている。  〈結果〉 生徒の学ぶ意欲、目的意識の向上もふくめて、1年生からの勤労観や職業観を育むための系統的な学習内容づくりが必要。	2.76		
	特別活動	学級活動	望ましい人間関係や生活上の様々な問題について、協力し解決していこうとする指導ができている。  〈結果〉 学活の時間を計画的に提案することで、学級の諸問題など、話し合い活動、取組の実践、振り返りと一連の取組ができるようになってきた。	3.24	○今年度は特別活動や学級・学年づくりの大切さを痛感させられた1年でした。中学校でもご苦労されたと思います。  ○日々の生活が様々な制限された中で今やれることを模索しながら実践したことを、これからの教育に生かしてほしい。	○特別活動の時間（学級活動、生徒会活動、学校行事）をより効率よく、カリキュラムマネジメントの視点で見直し、生徒の資質・能力を効果的に育てることができるようにする  ○生徒の活動が制限された中でも、主体的に活躍できる場を設定し、様々な課題解決や行事等の成功をめざして取組ができるように指導していく。  ○「嘉穂中人権基本法」の視点が学級活動や生徒会活動の柱になるように意識して取り組みを進める。
		生徒会活動	あいさつ運動をはじめ、日常的な活動を通して、生徒自らが、よりよい学校生活の向上を目指す指導ができている。  〈結果〉 人権基本法を基盤にしながら、生徒会専門委員会の活動が年々定着している。今年度は制限が多い中でも工夫し、できることからよりよい活動になるようにした。	2.82		
	学校行事	実践的な態度	学校行事や様々な体験的活動の取り組みが、生き生きとした学校生活の実現につながっている。  〈結果〉 例年の取組ができない1年だったので、すべての行事を見直す機会となった。感染対策や工夫を凝らした学校行事となった。	3.06	○課題や障がいになることも多いときですが、創意工夫もできる状況であることを意識してほしい。 ○行事を中止にするのではなく、方法を変更して実行されたことはとても有意義だったと思う。未だコロナ収束の目処がつかない状況だか、引き続き学校行事の工夫をお願いしたい。 ○「生きる力」に連結する行事や活動が実施できなかった年。逆にその大切さを実感することや、共通理解を図ることができる年になったように思います。 ○今年度はあらゆる活動が制限された1年であったが、制約のある中で主な行事を実施できたことは評価したい。知恵を出し合い工夫を凝らして取り組んできたことは、生徒たちの自信につながるはずだ。 ○コロナ禍で生徒にとっても大切な活動の場である学校行事が随分制約されたと思います。一日も早く、体育会、文化発表会、修学旅行等が実施されその行事を通して生徒が成長することを願っています。	○コロナ禍で制限があるなか、今までの学校行事を見直す良い契機ととらえ、体育会や文化発表会を通して育てたい生徒像を共有しながら、意欲的に諸活動に取り組んでいく。  ○学校行事等の取組で難しい課題を解決できるような経験や、友達と協力しながら成功に向かう体験をさせていく。  ○コロナ禍でも保護者、地域の方に生徒の頑張っている姿を伝える方法を工夫し、地域のひと・もの・ことの力を活用した実践を各学年で計画していく。
		社会性の育成	体験活動や学校行事等で、生徒に役割を持たせ、やり遂げさせる体験と評価される体験を意図的・計画的に仕組んでいる。  〈結果〉 各行事で実行委員や係の役割分担を行い、責任を持たせながら実施させることができた。	2.88		
総合所見	○将来の展望やなぜ学ぶのかといった意欲を育てていくために、小学校とも連携しながら、系統だったキャリア教育等の取組を計画実践する ○生徒の自主性・主体性を生かしながら活動が見える生徒会活動の取組や、「嘉穂中人権基本法」の精神が根付いた学校生活が送れるようにし、嘉穂中学校の伝統としていく。 ○目指す生徒像を教師が共通理解し、学級活動、生徒会活動、体育会等の学校行事を通して責任感や協働、最期までやり遂げる力を育成する。 ○協力的な地域（校区）の力を生かし、ひと・もの・ことを活用した実践を創り上げる。					